

人本日についてⅢ

David K. Reynolds, Ph.D.
dkreynoldsjapan@gmail.com (日本語対応返事英語)
dkreynolds@juno.com (英語)
<http://constructiveliving.org> (英語)
<http://constructiveliving2.weebly.com/>

Fear and Conformity 不安と服従

「日本での日常はアメリカより暴力は少ないが、人々の社会的な行動は元に懲罰があると考えた恐怖感から細かいことに気を使い過ぎると思えた」(Skinner, B. F. “結果の問題” ニューヨーク大学出版1984年、378頁)。



スキナーの言うとおりで、力のある人たちに歯向かうとか、間違いや失敗する代償は日本では相当高いです。現代の若者の斬新な脱線行為といっても、ほとんど服装かダンス、ヘアスタイル、アニメに限られた安全な範囲に留まります。前の時代では、権力者は、一揆を起こして歯向かった本人だけでなく家族や村人全部を殺すことができたのです。歴史的にも「出る釘は打たれる」ことにならないよう極めて気を遣うことを学んできたのです。どんな社会的リスクも長期の社会的関わり合いの意味と比べて測られなくてはなりません。

安全な道は社会的罰を受けないような、目立たない振る舞い方が必要とされます。例えば、ある日、私はカリフォルニアのスティンソンビーチの近くで4人の若者が走っているのを見ました。グループの最後の1人は日本人でした。彼は先頭に出ようとはせず、それでいて他の三人のスピード速度に合わせて離れすぎないように走っていました。

気をつけなくていけないのが、国の戸籍です。この制度は結婚、離婚、出生と死を通して個人の足跡を認める日本の家族登記です。例えば日本で自分の個人的歴史を隠すことはアメリカよりずっと難しいです。アメリカ人は(正しく、あるいは不当に)社会制度を直すことができる、少なくとも戦えると信じます。日本人の大部分は、制度を既定の事実と受け止め(戦いたくないこともあり)、制度内で動くだけです。

日本とアメリカには、「私がそれをしなさいと言ったのでしなさい」と命令できる権力がある人を認める、社会的立場と社会的地位があります。上にある人は行動の説明をする必要はありませんが、低い立場の人たちは、少し道はずれた行動をする理由を上の人たちに、正しくふさわしい、また一番興味をもたれるように、細かい説明の仕方を学ばなくてはなりません。両文化で低い身分にある人は、同じように力の弱い人たちを観察して真似ることで(安全な道)、頼みごとを正当化する説明がうまくなる人もいます。

Information control 情報管理

日本では、高い地位の人が下の者に計画や指針を現実になるまでは漏らしません(情報を出さないのが上の人という意味)。そして、高い地位の人たちは下の者から情報を集めます。国際市場と科学の情報管理は日本にとって地位の指標といえます。アメリカがおおよそ10年前に一方向的な突然の

政策決定で日本を驚愕させたとき、Nijnohinの一部は地位の上下の表出で衝撃を受けました。
日本情報管理語；挨拶の決まり文句、習慣への愛着献身、感情が顔に出るといけない心配症状。

役立つかもしれない希望で情報を親切に出すのは危険です。別の情報にとって代わるか、あなたが与えた情報を他の人が他に回したり、あなたに不利になるよう使われる恐れがあります。しかし用心深く情報を保留するのは、リスクは少ないかもしれませんが、リスクを避けている間に、お返しの美徳行為は萎みます。(アメリカ・オレゴン州CLセンター所長)




日常の小さな仕事に新しいやり方を見つける

—IACL News letter: Vol. 15, No. 6 (June, 2013) から—

David K. Reynolds (dkreynoldsjapan@gmail.com)

学ぶことをやめてしまうと、周りとの社会的なつながりが絶たれ、精神的な死が訪れます。自分の体も含む環境から注意を払って学んでください。日常生活の様々なこと—皿洗い、シャワーをする、トイレ、着替え、掃除、書く、聞く、歩くなどの新しいやり方を見つけてください。生活を改善する方法を探さなくなるほど今の生活に満足しないで。新しいやり方を研究して実践した結果がどうであっても、新しい方法の探索と発見は生き生きと生きる上でとても大事です。

 [目次へ戻る](#)